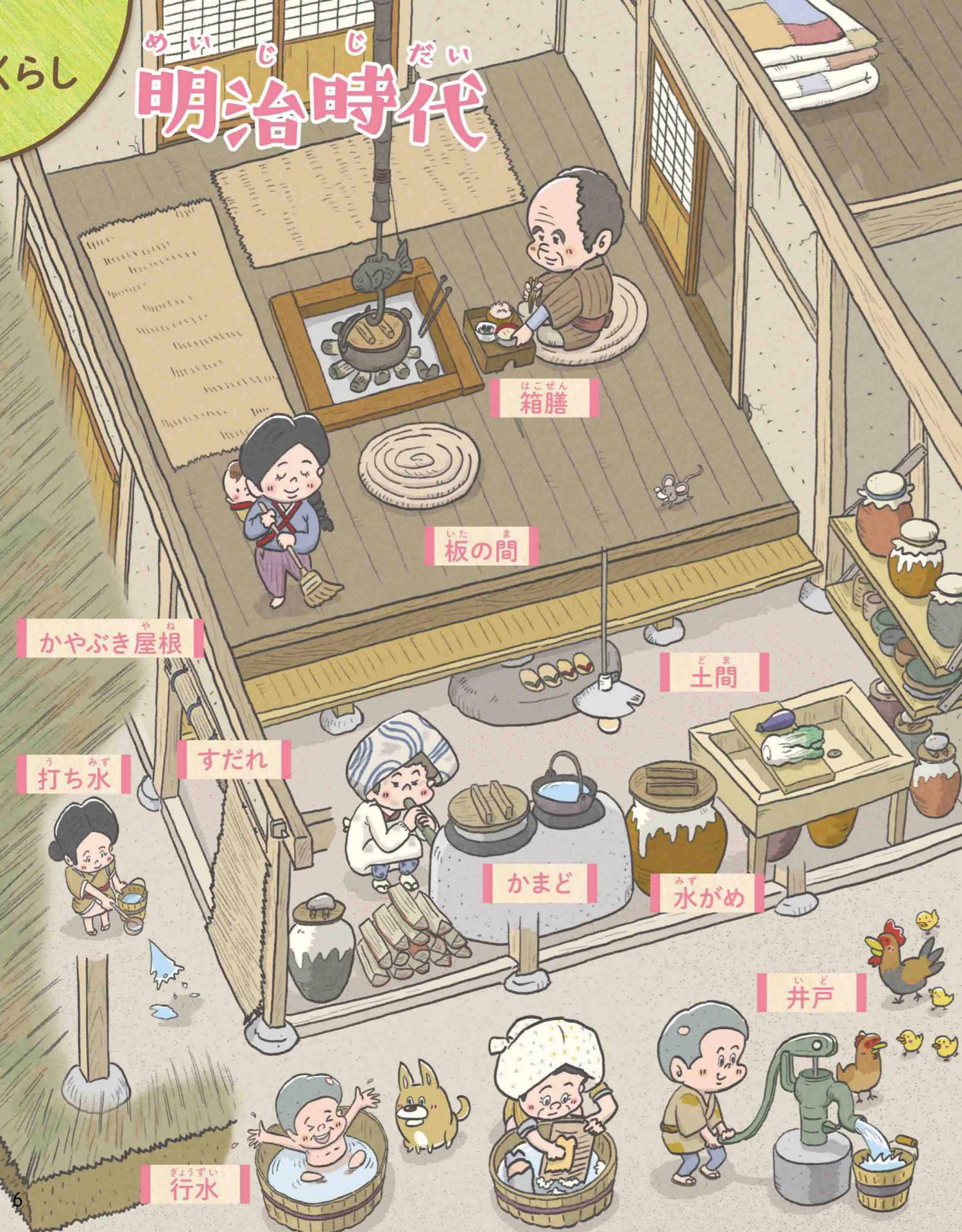




どうぐやふくそくなど、私たちのくらしは、時代によって大きくかわってきました。みなさんのおじいさんやおばあさん、お父さんやお母さんが子どもだったころのくらしは、どんな感じだったでしょう。

くらし

めいじじだい 明治時代



めいじじだいとし
明治時代、都市のまちなみには外国の技術が使われはじめましたが、
ふつうの家は、昔ながらの日本家屋でした。

めいじ
明治たいしょう
大正しょわぜんき
昭和前期しょわちゅうごき
昭和中期・後期へいせい
平成

令和

のうかいえ 農家の家のつくり

めいじじだいこうはん
明治時代後半になると、外國で産業革命
が起ります。日本でも材料を加工して物
をつくる工事がもり上がりはじめますが、
まだまだ産業の中心は農業。米や野菜など
をつくってくらす農家が多くありました。

このころの農家は、平屋だてとよばれる
1階だての家がほとんど。屋根はカヤとい
う植物を使ったかやぶき屋根というつくり
でした。部屋は、たたみじきの和室と、板
ばかりの板の間がありました。

みずかわいと 水は川や井戸でくんで大切に

りょうりせんたくつかみず
料理や洗濯で使う水は、家の外にある井
戸や川からくんでいました。水がめなどに
ためた水は貴重だったので、少しずつ大切
に使いました。

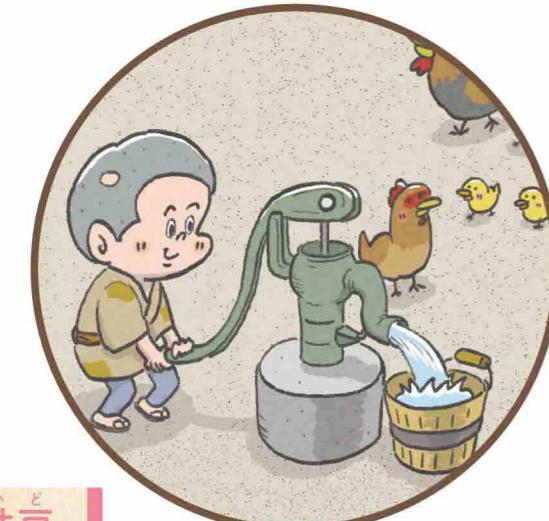
なつ
夏はすだれで日光をさえぎったり、行水
うみずからだひ
や打ち水で体を冷やしたりするくふうをし
ていました。

しょくじ 食事は全員そろって

いえなかひろどま
家の中には広い土間があり、そこにお勝
て(台所)がありました。かまどで燃料用
の木である薪を燃やしてごはんを炊いたり、
鍋で調理をしたりました。

しま
食事をするのは、土間のとなりの板の間。
はこぜんつかしょくじ
箱膳を使って食事をしました。祖父母、父
母、子どもと、三世代にわたる大家族でく
らすことが多かった時代でした。

めいじじだい 明治時代のキーワード



井戸

せいかつつかじめんちかすい
生活中に使うために、地面をほって地下水を
くみ上げるようにしたもの。水道がない時
代は、こうして水を手に入れていました。



打ち水

みちにわみずじめんみず
道や庭に水をまくこと。地面に水をまくと、
周りの温度が下がるため、すずしさを感じ
ることができます。



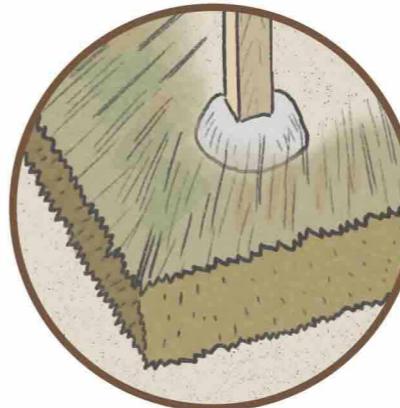
行水

ゆみずいおけやたらいにお湯や水を入れ、それをあ
びて体を流すこと。体をきれいにするため
にしていました。



かまど

りょうり料理をつくるときに、したひをつけて煮
たたきするための場所。上に鍋などを置いて
使いました。



明治

大正

昭和前期

昭和中期・後期

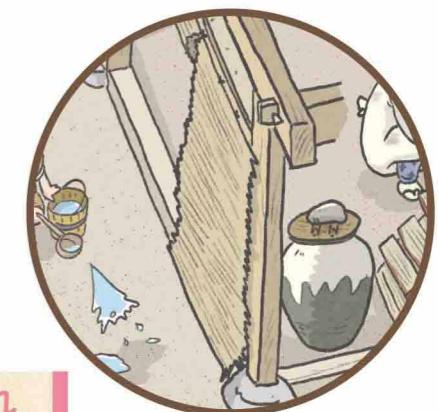
平成

令和



箱膳

ぶんしょっきはいはこ
ひとり分の食器が入っている箱のこと。箱
のふたをひっくり返すと、お皿をならべる
台になりました。



すだれ

こまわたけなんばん
細かく割った竹やアシという葉っぱを何本
もならべて、糸であんだもの。日よけのた
めに家の外につるして使いました。

気になる言葉

産業革命

イギリスをはじめ、フランスやアメリカなど世界中で起こった産業の変化のこと。日本でもこれらの国にならって、明治時代に産業革命がきました。

それまでは人だけでやっていた仕事を機械

つか使ってするようになりました。仕事の進み方が大きくかわっていきました。
とくに、糸をつむぐ「綿糸紡績業」や鉱石をほる「鉱山業」などに機械が使われ、たくさんの人気がはたらきました。